

2024年度 岡山医療専門職大学 教育課程連携協議会（第1回）議事録

1. 日 時:2024年11月20日(水) 19:00~20:00
2. 場 所:学校法人本山学園 3階会議室
3. 出席者:小野俊朗学部長(議長、教職員)、明日徹学科長(教職員)、藤岡晃氏(職業)、青景遵之氏(協力)、河本聡志氏(協力)、中島英彦氏(地域)、大橋芳隆事務長(事務局)、牧田理恵(事務局、議事録作成)
4. 議 題
 - (1) 事業報告
 - ① 教員の異動等について
小野議長より資料に基づき、教員の退職と入職、理学療法学科より作業療法学科への転籍の報告があった。また、理学療法学科2名が昇任したことの報告があった。
 - ② 2024年度在籍学生数、退学・休学者数について
小野議長より資料に基づき、在籍学生数、退学・休学者数について報告があった。
作業療法学科は、2024年度より定員を30名に変更した。今後も退学者減少に力をつくしていくとの説明があった。
 - ③ 保護者会について
小野議長より資料に基づき、2024年7月21日(日)に保護者会を開催したことが報告された。全体説明後に個別相談を実施した。個別相談では、就職についての相談が多く、ブースでの待ち時間が長くなっており、次回は全体で質疑応答をした方が良いとの意見があったが、今後検討をする。
 - ④ オープンキャンパス参加人数実績について
小野議長より資料に基づき、オープンキャンパス参加人数の実績について報告された。参加人数が、今年度7月末時点で、昨年度の1.5倍に増加しており、今後もオープンキャンパスの参加特典を設けるなどして継続して参加者数を増やしていきたいとの報告があった。
 - ⑤ 総合型選抜選考方法の変更について
小野議長より資料に基づき、総合型選抜選考方法を2025年度より「能力」「資質」を客観的、適正に評価できる入試制度に変更したとの報告があった。2024年度までの入試では、レポート、発表とグループディスカッション、面接を行っていたが、この選考方法では、受験生のプレッシャーも大きく、受験生に本当に能力があるか判定できないため、2025年度より書類審査、ミニ講義、レポート、面接に変更したとの報告があった。作業療法学科は認知度が低く、受験者数も少ない。充足率を上げるには、作業療法学科の受験者数を増やす必要があるとの報告があった。
 - ⑥ 卒業論文発表会について
小野議長より資料に基づき、2024年10月30日(水)に各学科、卒業論文発表会を実施したとの報告があった。
 - ⑦ 卒業試験制度について
小野議長より資料に基づき、2024年度より実施の卒業試験制度について報告があった。2024年度は、卒業試験1回目は、2024年12月11日(水)、2回目は、2025年1月25日、

RTS は、2025 年 1 月 29 日に実施予定であり、RTS は救済措置として実施することが報告された。RTS が不合格の場合は、留年とする。学生に緊張感を持って国家試験に向けて頑張っているとの説明があった。

⑧ 岡山医療専門職大学地域公開サロンについて

小野議長より資料に基づき、2024 年 6 月 23 日(土)と 8 月 25 日(土)の 2 回、地域の方を対象とした公開サロンが開催されたとの報告があった。また、西川アイプラザで開催された地域防災フェアへボランティアとして学生と教員を派遣した。今後も地域貢献のため、安全に考慮して取り組んでいきたいとの説明があった。

⑨ その他

特になし

(2) 審議事項

① 地域との連携による授業の実施について

河本委員より、作業療法学科では地域と連携して授業をしていると思うが、地域のイベントにいろいろ参加するのは良いと思う。先生方が検診等に出向いてお手伝いするのはどうかと意見が出た。結果が出るまで大変だが地道な努力が先々生きてくるのではないかと。

② その他

特になし

【意見交換】

小野議長: 認証評価でも文部科学省の AC でも作業療法学科の充足率、認知度を上げるには、どうしたらいいかと聞かれるが分からない。全国的なものだと思う。

中島委員: 併願制度にしてはどうか。どこの学校も作業療法学科は定員割れしている。入学して勉強して資格をとって社会に出れば良さは分かってくると思う。入学する段階では、そこまでは至っていない。とりえずセラピストというところに目を向けられるようにしていければいいと思う。

河本委員: 川崎も定員割れしている。リハ職そのものになりたいと思う子供たちが減ってきている。

青景委員: 昔は倍率が高かった。高校生にとって作業療法学科の認知度が低い、一つの大学としてアプローチするのは難しい。今回オープンキャンパスで参加人数が増えていますが、オープンキャンパスでの取り組みとかありますか。

小野議長: 1 期生が卒業して国家試験の合格率が出ている。今までは大学としての認知度がなかったが、数字が出たというのはある。

青景委員: オープンキャンパスが増えているというのは、少しでも知名度が広がっているということではないか。まずはオープンキャンパスを増やさないと増えていかない。地道で大変だと思うがそこを頑張っていけないといけない。地域の活動はとても良いと思う。地域の方に来ていただくことが重要。地域の方にメリットになることをやって、地域の方からここにこういう大学があるということに広がっていくと思う。

中島委員: 地域公開サロンは市の協賛をとられていますか。川崎なんか市協賛をつけているから、市の広報に掲載される。岡山市に言えば通ると思います。あと在校生の出身はどこですか。

大橋事務長:7割が県内。香川、兵庫、広島、鳥取、福井。県外はもっと増やしていくことが必要かなと思います。

中島委員:いくつかの学校に行っているが、県内出身が多いなという感じですが。姫路駅の近くにあるOTとSTと救命救急士の学校ですが、OTは定員40名で37名。ほぼ定員を満たしている。そこも8~9割は県内の学生。姫路駅から学校まで屋根がついていて傘がいらぬ。地の利もあるが、県内の学生が集まりやすい。また、学生にお金をかけさせないよう教科書を指定しておらず、購入させていない。その代わり資料を充実させている。新幹線のホームに降りて学校まで6分です。

大橋事務長:うちも便利だとは思ふ。

河本委員:SNSを拝見したが、広報の方で、更新されているのか。Instagramとfacebookをされていますね。出す頻度が、「たくさん出ているな」という学校さんに比べると少ないと思う。

大橋事務長:理事長もホームページに力を入れていく方針なので、Webを強化していこうと思っている。

中島委員:駅からのロケーションとかをするといいのでは。

大橋事務長:授業風景とか動画で配信している。

河本委員:学生は、ホームページにはあまりアクセスしない。勝手に情報が飛んでくるような時代ですから。見る側はそちらを使う。

中島委員:学生は常時見えています。

河本委員:最近の投稿が7月29日となっています。。

藤岡委員:受験シーズンですから。Youtubeは出されていないんですかね。

大橋事務長:常時はやっていない

藤岡委員:高校生が見ているのはYoutubeです。入院患者の子供もほとんどYoutubeを見ている。そこで検索したりしてひっかかればいいんですが。Youtube広告とかはどうでしょうか。

【学長への意見の概要】

地域との連携による授業やイベントの実施について、時間はかかるが、本学の認知度を上げるためにもう少し増やすことをご検討いただきたい。

2024年度 岡山医療専門職大学 教育課程連携協議会（第2回）議事録

1. 日 時:2025年3月17日(水) 19:00~20:00
2. 場 所:学校法人本山学園 3階会議室
3. 出席者:小野俊朗学部長(議長、教職員)、明日徹学科長(教職員)、荒尾賢氏(職業)、藤岡晃氏(職業)、青景遵之氏(協力)、河本聡志氏(協力)、瀧上正康氏(地域)、中島英彦氏(地域)、本山康代事務局長(教職員)、大橋芳隆事務長(事務局)、牧田理恵(事務局、議事録作成)
4. 議 題
 - (1) 報告事項
 - ① 卒業試験の実施について
小野議長より資料に基づき、2024年12月11日(1回目)と2025年1月15日(2回目)の卒業試験実施の報告があった。
 - ② 卒業式の挙行について
小野議長より資料に基づき、学位記授与式が2025年3月14日(金)11:00~12:00に挙行され、理学療法学科は、48名、作業療法学科は16名が卒業したことの報告があった。
 - ③ 国家試験結果(自己採点)及び就職内定状況について
小野議長より資料に基づき、2月25日に実施された国家試験の自己採点結果について、理学療法学科は、95.9%、作業療法学科は、87.5%との報告があった。内定率については、理学療法学科は、89.6%、作業療法学科は、86.7%で、様々な病院等に就職しているとの報告があった。
 - ④ カリキュラムツリーの作成について
小野議長より資料に基づき、カリキュラムツリーの作成とオリエンテーション時、学生へ周知を行ったとの報告があった。
 - ⑤ シラバスの改訂 - 新年度より適用について
小野議長より資料に基づき、2025年度よりシラバスの改訂を行い、到達目標欄、関連卒業認定、学位授与方針、事前事後学習内容・必要時間の記載内容が変更になったとの報告があった。
 - ⑥ 専門職大学分野別認証評価(リハビリテーション分野)審査結果について
小野議長より資料に基づき、分野別認証評価結果が、専門職大学評価基準を構成する22の基準をすべて満たし、適合となったとの説明があった。また、優れた点、特色ある点、改善が望ましい点についても説明があった。結果については、3月末に公表予定である。
 - ⑦ その他
特になし

(2) 審議事項

① 「岡山経営者論」の開講年次について

荒尾委員より「岡山経営者論」は、認証評価で評価されているので、実地調査の際に学生の意見もあったが、今後も望ましい開講年次に開講してもらいたいと意見があった。

小野議長より「岡山経営者論」は、他学になく、様々な所で評価されている。学生の一部から4年次開講について、もう少し早い時期に開講して欲しいとの意見もある。広い視野を持って経営のトップの方にお話を聞くことが出来るので、今後も充実させていきたい意向である旨説明があった。

② 教育課程:教員資格必修科目について

小野議長より既に教育課程連携協議会で討議し、設定することが決まっているが、「心理学」、「哲学概論」は、1年前期の選択科目であり、毎年、「心理学」の受講者数が多く、「心理学」が教員資格の必修科目と周知した場合、「哲学概論」の受講者がより少なくなる可能性を示唆された。

明日学科長より将来教員になる為には、教育学科目の単位を4単位取る必要がある。そうしなければ、長期の教員研修を受ける必要がある。現時点では、希望している学生はいないが、将来検討している学生はいるので引き続き検討が必要である。

③ ICT教育について

中島委員より学生がタブレットを利用することも多いが、こちらでは、教科書や資料はどのようにしているのかと質問があった。

小野議長より卒業生アンケートで教科書が多すぎるとの回答もあり、電子書籍も多くなっているので、今後の検討事項である。

本山事務局長よりタブレットについては、諸外国では禁止しているということもある、と意見があり、本学になじむかどうか検討が必要であることが周知された。

④ 理学療法学科について

本山事務局長より理学療法学科にスポーツに関心のある学生が多数いるため、スポーツに特化した教育課程を編成してはどうかと意見があった。委員の中から、理学療法士の中にはトレーナーもいて興味のある学生もいるのでコースなどで学べるのも良いのではないかと意見があった。

④ その他

なし

(3) 学長への意見の概要

次の①～④の事項について検討をお願いしたい。

①岡山経営者論の開講年次変更

②教員資格必修科目の設定

③教科書のICT化

④スポーツに特化した教育課程の編成

2025年度 岡山医療専門職大学 教育課程連携協議会（第1回）議事録

1. 日 時:2025年6月5日(水) 19:00~19:50
2. 場 所:学校法人本山学園 3階会議室
3. 出席者:小野俊朗学部長(議長、教職員)、明日徹学科長(教職員)、藤岡晃氏(職業)、河本聡志氏(協力)、金安孝浩氏(地域)、中島英彦氏(地域)、本山康代事務局長(教職員)、大橋芳隆事務長(事務局)、三宅孝典(事務局)、牧田理恵(事務局、議事録作成)

Web参加:荒尾賢氏(職業)

4. 欠席者:青景遵之氏(協力)

5. 議 題

(1) 審議事項

① 理学療法学科、作業療法学科の新コース設置について

小野議長より理学療法学科、作業療法学科について、コースを新設する旨、資料に基づき説明があった。

西委員から、スポーツという名がつくのは、色々なスポーツがプロ化しており、学生にも分かりやすく、今の時代には非常に良いとの意見があった。

河本委員から、主たる事業所で働いている人間が一般企業に依頼を受けて出向いていくとなると、世の中が副業を認めるかどうかによって働く場は変わってくる。

そういう将来を見越してアピールしていくというならいいが、先が読めないとの意見が出た。

藤岡委員から、身体ケアで収入を得ている方もいるので、アピールの一つになるかもしれないが、理学療法士と作業療法士は、理学療法士法あるいは作業療法士法の法律に基づき、診療報酬の中で働いているのでそれ以外の場で働くのは、作業療法士として語って仕事はできないので、正統派の仕事ではないとの意見が出た。

西委員から、就職先がないと人は来ないので、将来的にこれくらい稼げるということが見えるようにした方が良い。また、県のスポーツ協会でも各競技団体と関係が非常に強いので、県のスポーツ協会に出向き、それなりの地位の方を紹介してもらい、そこから先の就職先を含めて経済同友会や商工会議所とかと関係を持つていくことが大学として必要なのではないかと意見が出た。

河本委員から、アスレティックトレーナーとして専従で勤務している人は少ない。入学したが、希望しているところに就職できないというのはどうかとの意見が出た。

藤岡委員から、オペをした病院が患者をケアしていくというのが岡山県内では主流であるが、オペをするくらいケガなのでけっこう完治に時間がかかる。しかし、リハビリにも上限があるので、それ以上見てもらうには、個人でお金を出していくような受け皿があった方がよい。そこに特化したような自費でもできる理学療法士あるいは作業療法士がいるトレーニングセンターがあれば魅力的だが、結果も出さないといけないので結構大変であるとの意見が出た。

荒尾委員から、開業権の問題があり、スポーツに理学療法士・作業療法士がかかわることが難しい。高校の部活動にボランティアとしてかかわっている人もいるが、スポーツを主軸として理学療法士がやっていくということはかなり限られる人しかできていない。スポーツと理学療法士というのは、厳しい現状だとの意見が出た。

中島委員から、切り口として、スポーツを学べる理学療法というのは良い。どんな対象者の人を見てもスポーツを意識して理学療法士として関わっていき、ボランティアとして関われる場面があれば積極的に出ていき、時代が変わっていけばそういう所へというような、そういう思いをもつことはとても良いとの意見が出た。

西委員から、大学のスポーツも今はどんどんプロ化しており、ユニフォームに企業協賛をつけられるようになった。大学とスポーツの絡みというのはいろいろできる。専門職大学が動くべきである。専門職大学がそういう動きをして、将来スポーツ理学療法コースを出た学生をそういう方向へ行けるという雰囲気づくりが必要ではないかとの意見が出た。

河本委員から、大学が団体とマッチングをして、時間があるときに行けるような環境を作るのは大学の役目であるとの意見が出た。

② その他
特になし

【学長への意見】

専門職大学がスポーツ分野と絡んだ取り組みをするべきであり、ボランティアとして関われる場所があれば積極的に関わっていくのは良い取り組みである。依って、理学療法学科、作業療法学科の新コース設置については賛成である。

2025年度 岡山医療専門職大学 教育課程連携協議会（第2回）議事録

1. 日 時：2026年3月17日（火） 19:00～19:50
2. 場 所：学校法人本山学園 3階会議室
3. 出席者：小野俊朗学部長（議長、教職員）、荒尾賢氏（職業）、藤岡晃氏（職業）、河本聡志氏（協力）、青景遵之氏（協力）、金安孝浩氏（地域）、中島英彦氏（地域）、本山康代事務局長（教職員）、大橋芳隆事務長（事務局）、牧田理恵（事務局、議事録作成）
4. 欠席者：西 康宏氏（地域）
5. 議 題

(1) 報告事項

①卒業試験の実施

【理学療法学科】

昨年度より2回実施。2回目は国家試験と同形式で実施。

48名中32名が基準（168点/60%）に達せず、1週間の対策を経て再試験を実施した。再試験の結果、16名の内10名が合格となった。残りの6名は「認定試験（午前のみ）」を経て卒業資格を付与したが、今年度の国家試験受験は見送り、来年度の合格に向けてサポート体制を構築する。

【作業療法学科】

2回目の卒業試験で全員が合格基準をクリアした。

②国家試験の自己採点結果

【理学療法学科】

受験者42名中、40名が合格見込み（合格率95.2%）。

1名が165点とボーダーライン上におり、不適切問題等の救済措置待ち。

既卒者3名のうち1名が合格見込み。

【作業療法学科】

受験者11名の内、10名が合格見込み。不合格の1名は模試では成績上位だったが、当日の体調やプレッシャーが影響したと分析。今後のメンタルサポートの重要性が確認された。

②卒業式および学位記授与式の举行

小野議長より資料に基づき、卒業式および学位記授与式が2026年3月13日（金）11:00～12:00に举行され、理学療法学科は、48名、作業療法学科は11名が卒業したことの報告があった。

③入試結果:

PT学科は志願者数が回復傾向（52～53名確保）。OT学科は定員適正化（20名）を行っているが、募集に苦戦しており、独自性の打ち出しが急務。

大学入学共通テスト利用方式の志願者が増加しており、受験生層の変化が見られる。

(2) 審議事項

①新設3履修コースの概要と方針

本山事務局長より新3コース制の概要について説明があった。新3コースは履修コースであり、既存の2学科には変更はない。そのため、コースをまたがった履修は可能である。履修コースの変更については、「専門科目が本格化する2年次進級時まで、希望者にはコース変更を認める」方針が説明されたが、協議中のため、ペンディングとさせていただきます旨説明があった。

設置コースの概要

学科	履修モデル名称	定員	主な特徴・新設科目
理学療法	スポーツ理学療法コース	40名	スポーツ医学、スポーツ栄養学、ヨガ、トレーニング科学
	実践理学療法コース	40名	従来の臨床教育をベースに、高度な実践力を追求
作業療法	アクティブライフ作業療法コース	20名	外出支援、旅行支援、アクティブライフ支援技術論

運用の基本方針

- ・ 共通科目：「企業入門」「岡山経営者論」を全コース必修とし、起業や一般企業就職も視野に入れたキャリア教育を行う。
- ・ コース変更：専門科目が本格化する2年次進級時まで、希望者にはコース変更を認める。
- ・ 募集：第一志望・第二志望制度を活用し、定員充足の最適化を図る。

②2026年度入学生からの教育課程（別表）

小野学部長より、2026年度入学生からの教育課程（別表）について説明があった。理学療法学科においては、「スポーツ理学療法コース」および「実践理学療法コース」の導入に伴い、科目の整理を実施する。これに合わせ、開学以来未開講であった「理学療法

演習Ⅱ」「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」を廃止する。また、作業療法学科においても、「アクティブライフ作業療法コース」の導入により同様の科目整理を行い、「作業療法演習Ⅱ」「総合演習Ⅰ」「総合演習Ⅱ」を廃止する旨が報告された。

③その他

広報戦略：オープンキャンパスでの「在学生との対話」が好評。

新履修モデルコースの魅力を、ホームページや SNS を通じて「卒業後の具体的なキャリア像」として提示していく。

-
- 教育の質の平準化：入学時の学力差に対応するため、リベラルアーツ（教養分野）の再編と初年次教育の強化を行う。
 - 地域連携：作業療法の「外出支援」等において、外部施設や企業との連携モデルを1年かけて構築する。